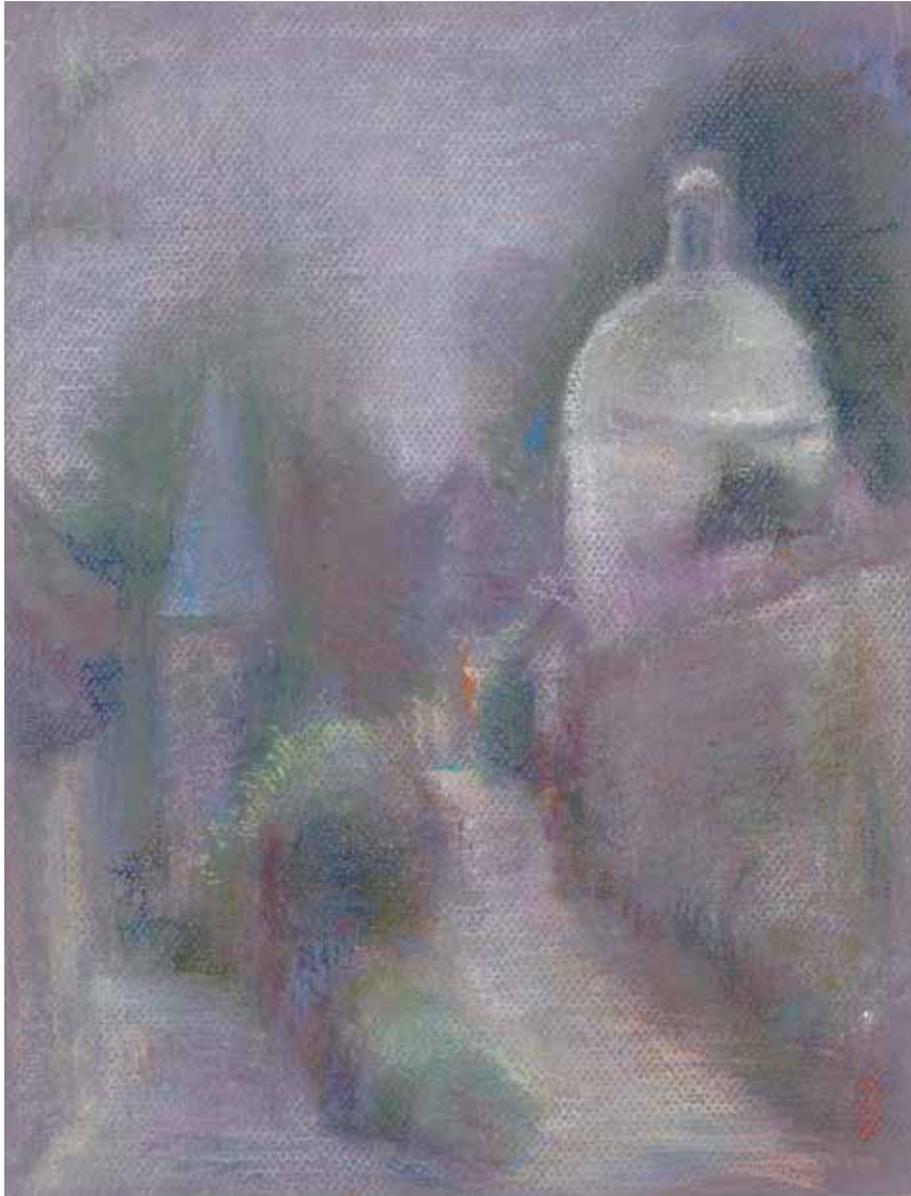


不二

中高版

1

2022



第71回全日本学生書道展成績発表
お正月・元旦写経案内

とうしゅうさいしやく
東洲齋寫樂

東洲齋
寫樂

署名では姓名を記す

(解説は18ページ)

小久保嶺石先生書

菱垣廻船
ひがきかいせん



署名では姓名を記す

(解説は18ページ)

小久保嶺石先生書

五^ご街^{かい}道^{どう}

道五
街

署名では姓名を記す

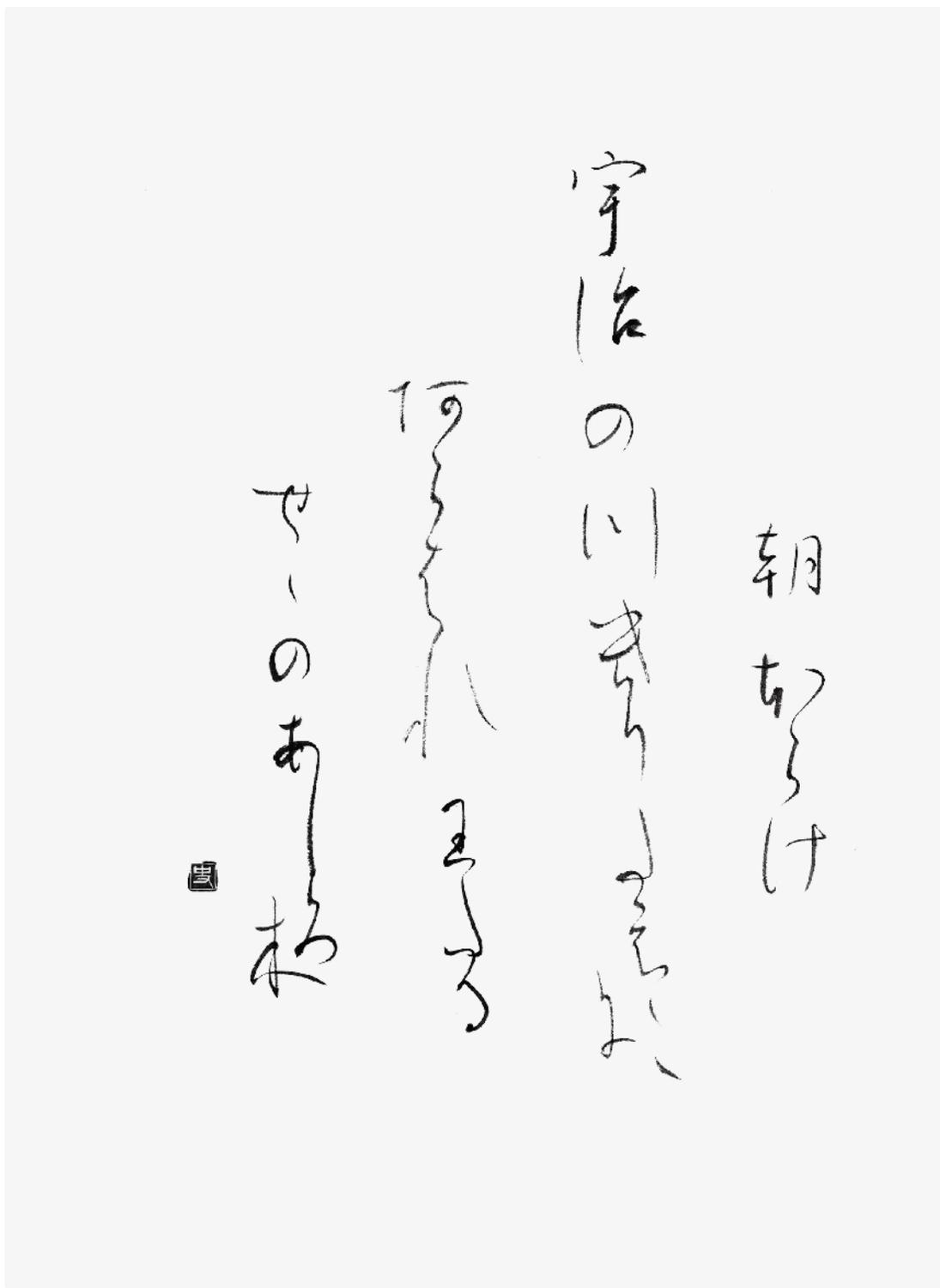
(解説は19ページ)

小久保嶺石先生書

かな半紙 (四段～初段)

課題は段級別です。ご注意ください。

朝本^ほらけ宇治の川^ぎ幾^たり多^だえ、
、^え、^に尔阿^あら者^われ王^わ多^た留^るせ、
、^せのあ^じしろ木



川島史子先生書

署名では姓名を記す

(解説は20ページ)

かな半紙 (1級~10級)

課題は段級別です。ご注意ください。

あ
利^り

那^な
と

尔^に
は

よ
ろ

ら
て

そ
つ



署名では姓名を記す

(解説は21ページ)

安東聖空書「梅雪かな帖」より

扁額の書をつくる (誌友く初段) 課題は段級別です。ご注意ください。

課題 横額「開明」

(用紙 画仙紙半切 石橋鯉城先生書)

〔解説〕
幕末から明治への大きな時代変革を支えた思想を表す言葉。当時の日本は西洋の学問や政治、そして生活文化を取り入れて新しい時代変革の気運に充ちていました。そうした頃にこの「開明」は一つの希望や目標ともなっていました。

新年、第一回目の扁額課題は、「開明」です。閉塞感のある時代ではありますが、気持ち新たに、傳統を重んじ未来に向かって邁進する皆さんに相応しい課題を選びました。

膝下丹田に重心を置き、腕を開いて体を使って書きましょう。筆の先だけをみて書いていませんか。紙全体を視界に入れて、余白、墨量に見当をつけましょう。

開：第一画で小さく点を打ちます。いき

なり筆を開いて墨を使い過ぎないように。「开」まで墨を持たせる書き方を覚えましょう。門構の縦画の対比で作品を引き締めます。運筆では、腕の開閉を心懸けましょう。起筆では少し腕をゆるめて、腕力の状態で入ります。

明：日偏は目偏に書いています。東晋の細楷や唐代の楷書に見られる伝統的な書きぶりです。こちらも縦画が4本並びます。書き出しの縦画は最左にあるので、「川」の字の行書の第一画を書くが如く運筆します。字の良し悪しは、縦画の書きなりに現れます。

書初不二語上展でも課題にヨコ作品(扁額)の部門を設けました。併せて取り組んでみましょう。

〈用具・用材〉

筆 永昌大号條幅
墨 一味真
紙 和画仙

※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。



さいてつぶんこう
祭姪文稿

がんしんけい
顔真卿

(七〇九~七八五)



仁兄愛我俾尔傳言



冬子愴

祭姪文稿

安史の乱(七五五)で戦死した甥の顔季明に捧げた弔辞の草稿。ここでの仁兄は季明とともに戦死した季明の父杲卿のことで真卿の従兄にあたる。

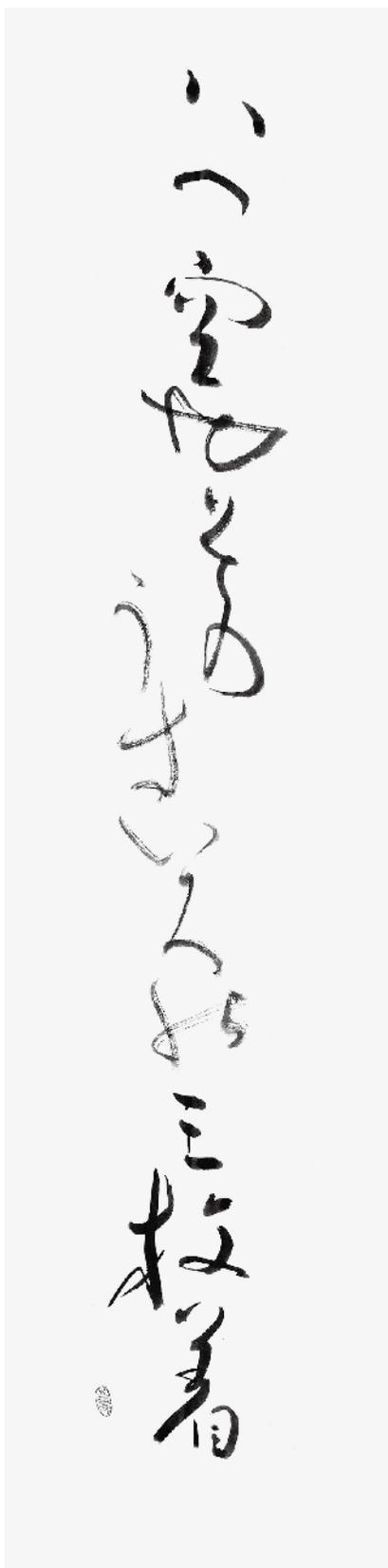
小久保嶺石先生臨

(用紙 画仙紙半折1/2・たて68cm×よこ35cm)

(解説は20ページ)

かな条幅 (誌友 10級)

須山万寿先生書



八つ空やそのうすいろ能三枚着

(用紙 画仙紙半折・たて 136 cm x よこ 35 cm)

〈読み〉初空やその薄色の三枚着

〈作者〉尾崎紅葉 (一八六七〜一九〇三)

〈大意〉元日の空がほのかに空けてくる。黄・紅・紫と三色くらいに見えるのだが、いずれも薄色で女性が淡色の着物を三枚重ね着しているようだ。

〈解説〉

○一月一日の空の句であり、気持ちも改まり明るい印象になるよう連綿は少なく「その」だけです。

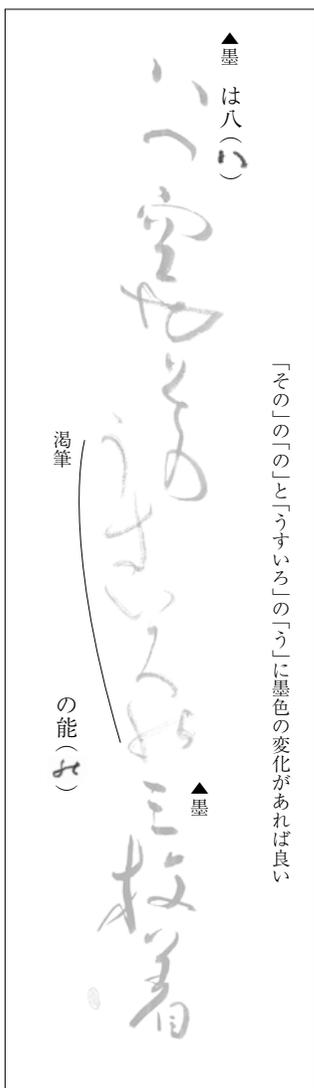
○放ち書きですが気脈が通じるように、特に「うすいろ能」は墨量も少なくなるところですが筆圧でしっかりと、リズムよく書いて下さい。

○「三枚着」は漢字ですがあまり力まない筆致で書くと良いでしょう。

〈用具・用材〉

筆 羊毛筆 墨 和墨 紙 かな用加工紙

※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。



▲墨 は八(り)

「の」「の」「の」「の」「の」に墨色の変化があれば良い

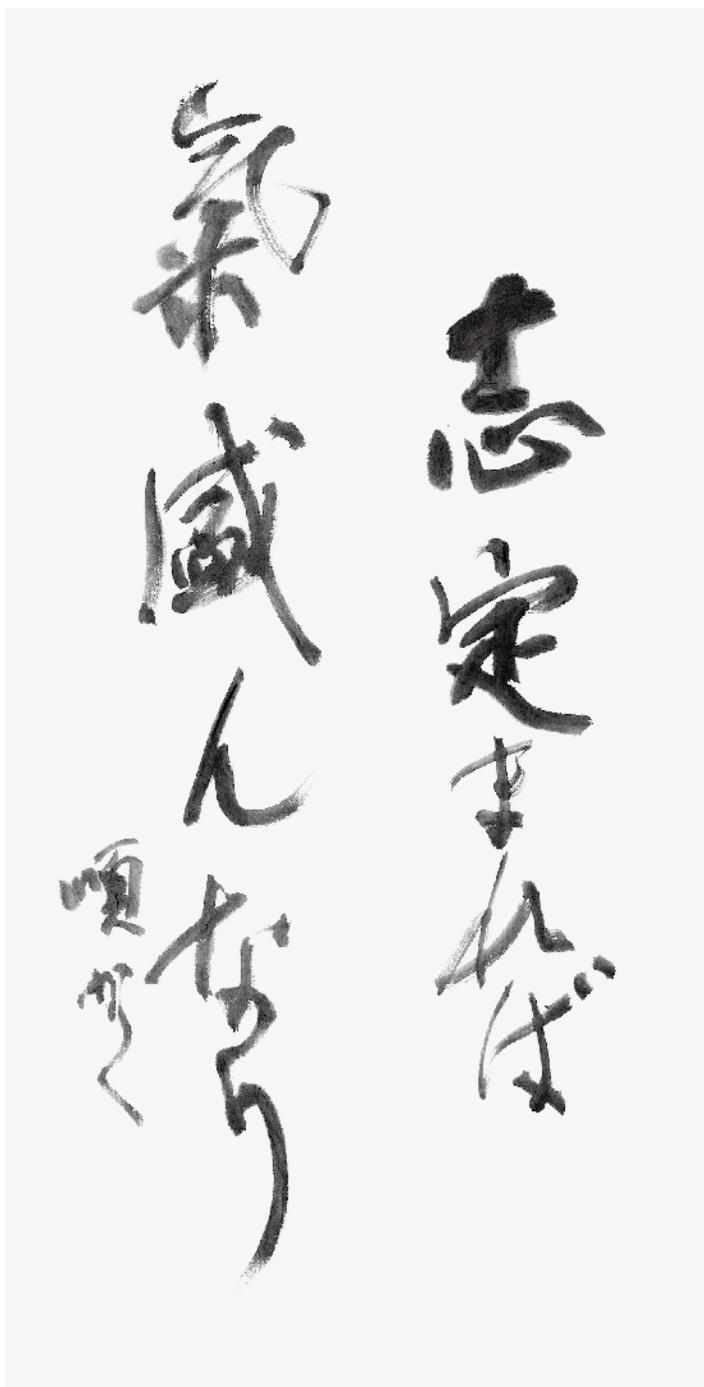
渴筆

の能(せ)

▲墨

新和様 (八段、初段)

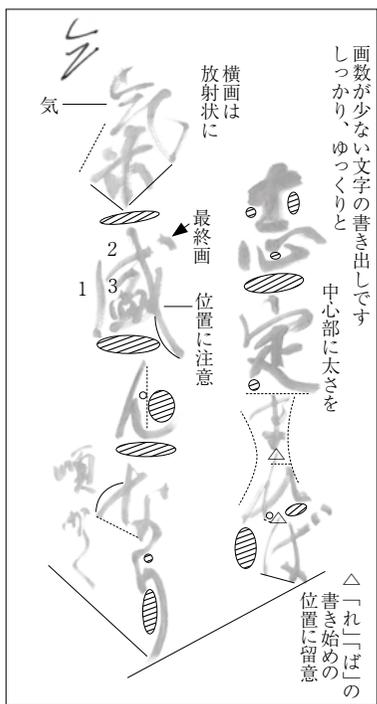
課題は段級別です。ご注意ください。



永井香樹先生書

(用紙 画仙紙半切1/2・たて68cm×よこ35cm)

※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。



志定まれば気盛んなり

〔作者〕 吉田松陰(二八三〇～一八五九)のことば。

〔大意〕 目標がはっきりしていれば、気力が自然に満ち溢れてくる。

〔解説〕 ○「滲み」・「掠れ」は、失敗ではあり

ません。自然であれば「美」です。

同じ含墨量でも、筆圧の軽重や運筆速度の遅速の変化によって表現

されます。

○一行目と二行目の潤濁が横に並ばないように配慮して余白をすっきり見せましょう。

○画数の多い漢字は、外側には墨量や太い線は避け、画数の少ない漢字は、太い線を活かしましょう。

〔用具・用材〕

筆Ⅱ和筆三号羊毛

墨Ⅱ和墨 紙Ⅱ手漉和画仙

大空に羽子^{はね}の白妙^{しろたへ}とま^まれり

大空に
羽子の
白妙とま
れり

署名では姓名を記す

(解説は21ページ)

(用紙 半紙)

石橋鯉城先生書

ペン（八段く初段） 課題は段級別です。ご注意ください。

堀津節子先生書

上野公園内にある東京都美術館で
 年始に開催される全日本学生書道
 展は今年で第七十一回を迎えた

上野公園内にある東京都美術館で年始に開催される全日本学生書道展は今年で第七十一回を迎えた

〈用具〉 つけペン、万年筆またはデスクペン、ボールペン、インクは黒色

（鉛筆は不可）

〈用材〉 不二硬筆用紙3行書き

〈解説〉

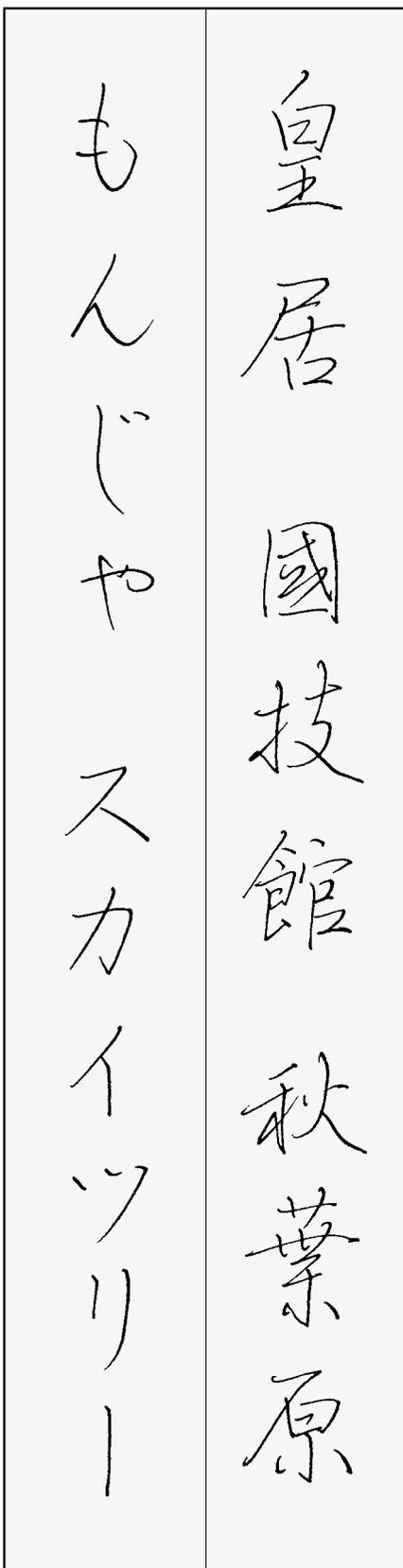
Annotations and stroke order details:

- 上野公園内にある東京都美術館で:
 - 上野公園内: 長く (long)
 - にある: 小さめ (small)
 - 東京都: 長く (long)
 - 美術館: 小さめ (small), 長く (long), 先端止め (stop at tip), 戻る (return)
- 年始に開催される全日本学生書道展:
 - 年始: 出して (out), 小さめ (small), あわせ方 (adjustment)
 - 開催: 小さめ (small)
 - 全日本: あわせ方 (adjustment), 長く (long), 止めて (stop)
 - 学生書道: 一つはなす (separate), しっかり (clearly), 止めてはらう (stop and pull)
 - 展: ハネず一画のように (like one stroke without a gap), 止めて (stop)
- 今年で第七十一回を迎えた:
 - 今年: 止めて (stop)
 - で: 少し右に (slightly to the right)
 - 第七十一回: タテを長く (lengthen vertically)
 - を迎えた: 止めて (stop), 戻る (return)

上の文字の取筆から※印まで一文字のように続ける

ペン（1級〜10級） 課題は段級別です。ご注意ください。

小島鳳浴先生書



皇居 こうきよ 國技館 こくぎかん 秋葉原 あきはばら
もんじゃ スカイツリー

本字（旧字）

筆写体

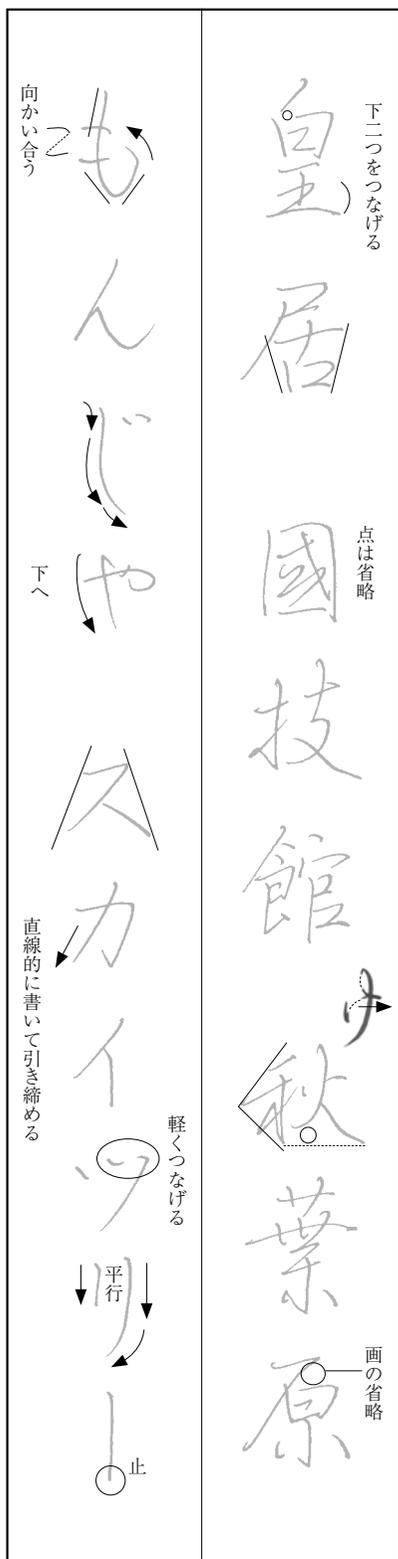
行書の筆順



〈用具〉 つけペン、万年筆またはデスクペン、ボールペン
インクは黒色（鉛筆は不可）
〈用材〉 不二硬筆用紙2行書き



〈解説〉



〃一字書って面白いな〃 — 筆遣いと筆字の表現 — 運筆の極意に迫る

〃何かこの字への想を込めて書こう〃
オモイ

(随意課題)
段級に関わりなく出品できます。
評価は天と地になります。

〈平がな一字書〉(参考作品)

(用紙 半紙)



う (この平がなの原字は「宇」の草書形)

う…二本の筆を持って書いています。それらの筆がどのように活躍して筆の軌跡を成しているか目で追ってみましょう。原字の「宇」から平仮名の「う」に変じているのです。この「う」は縦に細長い形です。二画目はすぐに払わず、一度下方へ引きおろしてから左方へ流します。草書の「宇」の撥ねを思い起こして運筆しましょう。

宇…千字文の冒頭部の「天地玄黄 宇宙洪荒」で馴染みのある漢字です。「宇宙」のように世界を表すほか、「気宇」のように精神、度量という意味もあります。漢字のこの行書の「ウ冠」に、何やら片仮名の「ウ」が見え隠れしているようです。さて、全日本学生

〈漢字一字書〉(参考作品)

(用紙 半紙)



宇 (読み) ウ・いえ・のき
(意味) のき。ひさし。いえ。天下。世界。精神。度量。

書道展高校部において文部科学大臣賞の荣誉に輝いた一字書作品「宙」(巻頭ページに掲載)も、なかなか良い作品でした。壮大な宙(そら)を感じました。この課題のテーマの〃何かこの字への想をこめて書こう〃を実践している作品でしたね。

〈用具・用材〉

筆 〓 特選永昌 墨 〓 松鶴齋寿 用紙 〓 松雪

※作品識別のため、作品下部に教室・氏名の鉛筆書きをしてください。

石橋鯉城先生書

課題解説

漢字半紙 誌友く五段)..... (3ページ)

東洲齋寫樂 (とうしゅうさいしやく)

〈大意〉

○江戸時代中期、北斎や歌麿などの人気絵師と同時代に活躍した。大きな顔と小さな手に、キツと結んだ口で知られる「大谷鬼次の奴江戸兵衛」が有名。

〈解説〉

○基本的な行書の書き方を学ぶ。

○それぞれの文字の概形を捉え、墨量などのバランスも考えて半紙5字作品として仕上げよう。

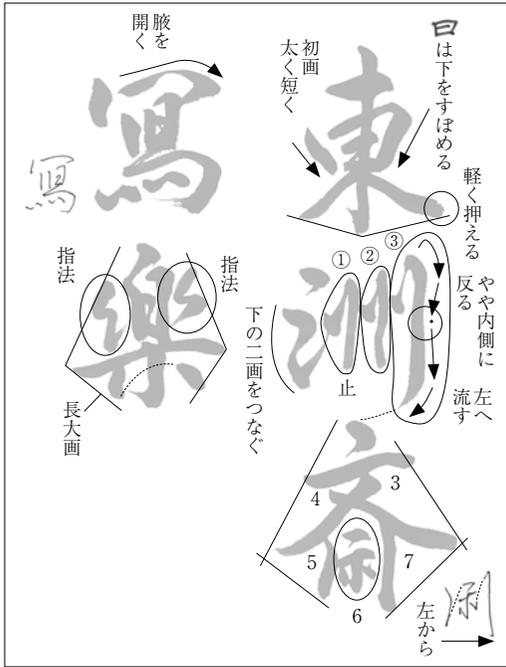
東：左右の払いを倒して、高さを出さない(洲も崩も高さがあるので)

洲：①は直線的に。②はやや動きをつけて、③は大きく動きをつけ、徐々に時間をつける。

齋：左右の払いを体を使って暢びやかに。下部は左からタテ・示・タテの順。寫：写の本字。

樂：左右の糸車(么)は力を抜いて指法で。上部を小さく作り、長大画を目立たせる。

〈用具・用材〉 筆 永昌四号 墨 油煙和墨 紙 松雪



漢字半紙 四段く初段)..... (4ページ)

菱垣廻船 (ひがきかいせん)

〈大意〉 江戸時代に大阪などの上方と江戸の消費地を結んだ廻船(貨物船)をいう。

〈解説〉

○行書の基本的な書きぶりを学ぶ。

○作品のまともとして大切なので書き方を学ぶ。

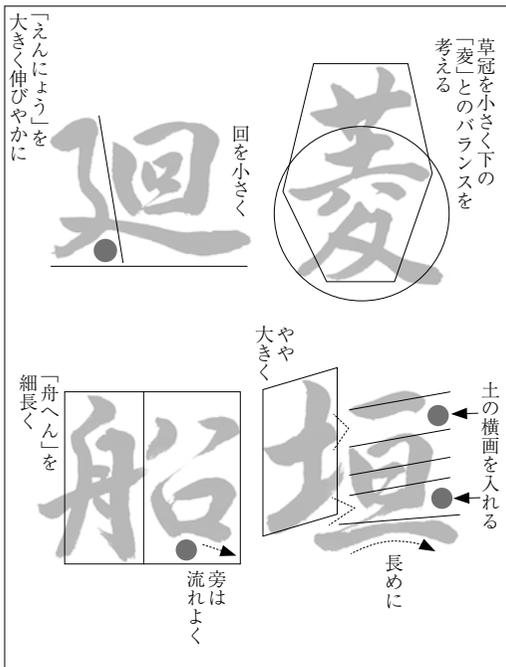
菱：「くさかんむり」を小さくした下の「菱」とのバランスを考える。

垣：「土へん」をやや大きめに、隣の「巨」の横画の間隔に留意を。

廻：回を小さくして、「えんによう」を広めに伸びやかに。

船：「舟へん」を細長くして旁を流れよく仕上げたいもの。

〈用具・用材〉 筆 永昌四号 墨 油煙和墨 紙 松雪



五街道(ごかいどう)

〔大意〕江戸時代、江戸を起点とした五つの大きな街道。東海道・中山道・日光街道・甲州街道・奥州街道。

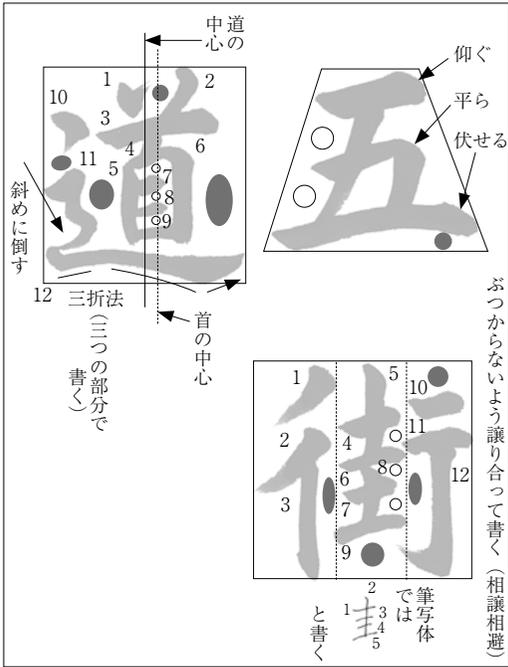
〔解説〕

- 三文字を楷書でバランスよく書く。
- 鋒先(かみ)の位置を確認しながら、きりつとした書線で表現しよう。
- 五:横画は伏仰法により、1画目は仰ぎ、3画目は平らに、5画目は伏せる。概形は台形にまとめる

街:行構えの中に土二つの構成。10・11画目の位置に注意。相讓相避(そうじょうそうひ)の原則から、ぶつからないように書く。

道:首と之繞(しんじょう)の組合せ。首の書き初めの位置に注意。中心より、やや右よりに首を書く。フトコロを広くとり、11画目を徐々に倒し、最終画は三折法(三つの部分)で伸びやかに書きたい。

〔用具・用材〕筆||永昌四号 墨||油煙和墨 紙||松雪



「秀歌之體大略」

君こそ春は悲と利やねなむさゝの葉乃のみ山毛所よ尔佐や久霜夜を

解説 福原溪春先生

〔読み〕君(きみ)こそはひとりや寝(ね)なむ(む)葉(は)のみ山(やま)毛(も)所(ところ)よ(よ)尔(に)佐(さ)や(や)久(く)霜(しも)夜(よ)を

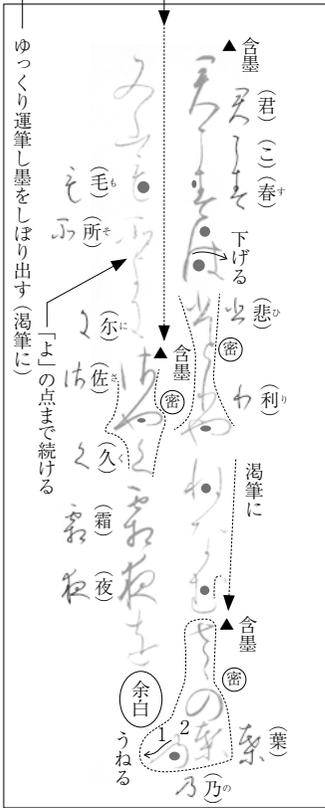
〔大意〕君が来ないなら、わたしひとりで寝てしまおうか。いや、そうはしま

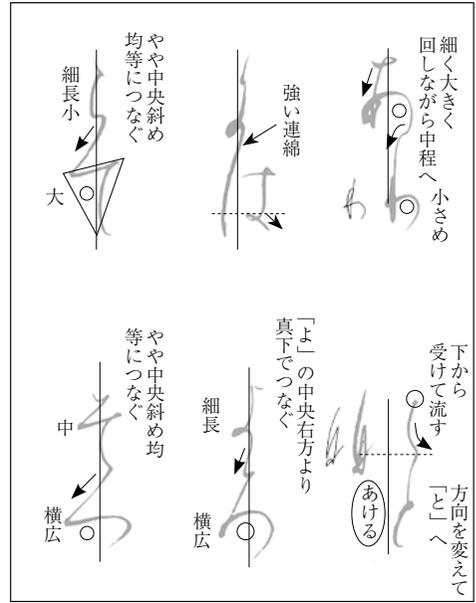
い。笹の葉が山全体をさやさやとざわめかして鳴る霜夜であるのに。

〔出典〕新古今和歌集 卷第六 冬歌 616 藤原清輔朝臣

〔解説〕

- 墨色の変化に留意する。
- ・含墨した時は速めに運筆する。
- ・渴筆部(「ねなむ」「み山毛所よ尔」)は、ゆっくり運筆する。
- 疎密の変化に留意する。
- ・「悲と利や」「さゝの葉乃」「佐や久」は連綿線を短くして密につくる。
- 変体仮名、漢字の草書を理解してから書こう。
- ・変体仮名の「春・悲・所・佐」など。
- ・草書では「君・葉・霜・夜」など。
- 5ページの「短冊の書式」を理解して全体の構成を考える。



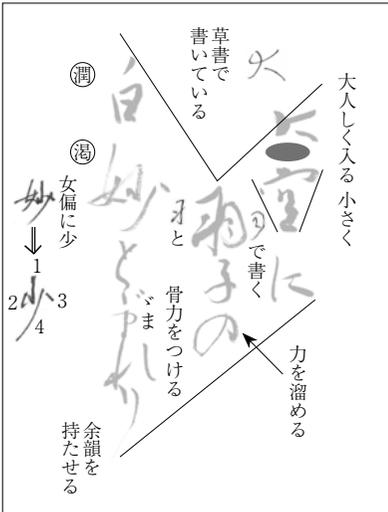


あ利^り 那^なと
 尔^には よろ
 らて そつ

安東聖空書「梅雪かな帖」より

※二字連綿は古典の表現で和歌の基本的な美をつくる大切なものです。繰り返し学習しましょう。

新和様(1級〜10級).....



大空に羽子の白妙としまれり

〈作者〉

高浜虚子(一八七四〜一九五九)

〈大意〉

羽根付きの羽を大空に向かって高く突く。落花してくる前の一番高いところで、白く美しい羽子が一瞬止まって見えた。

羽だけでもハネと読むが、虚子は「羽子」と詠んでいる。この手本でも「羽子」二字を中心に据えて存在感を出している。羽子「の」では「白妙」に向かうエネルギーを溜めて「白妙」に続く。「白」の潤筆と「としまれり」の渴筆で空間の遠近を表現している。

〈用具・用材〉 筆 大七紫三羊毫

墨 顕微無間 半紙 手漉半紙

◆2月号課題予告

漢字半紙

誌友 5段 千葉開墾地

四段 初段 伊能忠敬

1級 10級 大漁節

かな半紙

誌友 5段

四段 初段

1級 10級

扁額

誌友 初段

漢字条幅

1級 10級

かな条幅

誌友 10級

新和様

八段 初段

1級 10級

ペン

八段 初段

1級 10級

成田山

湾岸

房総

あさり

立別いなはの山能嶺耳生るまつ東し
 き可八今可へ利こむ
 見せばやな雄鳥のあまの袖だにも
 ぬれにぞぬれし色はかはらず
 二字連綿
 未定
 臨書課題(祭姪文稿)
 常磐木や冬されまざる城の跡
 未定
 縄文時代の貝塚は国内に約二五〇〇ヶ所以上といわれこのうち約一二〇ヶ所が千葉市内に集中しています
 未定
 リゾート

※課題は変更になることがあります。